

# 伯耆町の教育が進むべき方向性

みんなの思いをかたちに

児童生徒数が減少し続ける中、どうすれば心豊かでたくましく生きる児童生徒を育成できるかを検討するため設置された伯耆町学校教育検討会から、7月24日、答申書が出されました。

検討会は、学校教育関係者や保護者、地域の方々10名とアドバイザー1名からなり、17回もの活発な協議が行われました。その中では、広く地域や保護者の意見を反映するため、地域住民や保護者、教員あわせて1,283人を対象としたアンケート調査や、町内5カ所での状況説明会を実施しました。また、住民の方々に関心をもっていただくために、検討会は公開とし、議事録についても町のホームページで毎回紹介してきました。



## 答申書(要旨)

### 【諮問事項1】 学校教育の振興に関すること

児童生徒数が減少する中での学校教育の充実方策について

◆提言1  
伯耆町学校教育の基本方針に、「確かな学力の定着」と「人間力の向上」を据え、「人間関係能力の育成」「基本的生活習慣の確立」「自立心の育成」そして、「基礎学力の定着」に重点的に取り組まれること。

◆提言2  
児童生徒数が減少する中での学校教育の充実方策について  
・ある程度の学級規模が編制できるようにして、学校を配置すること。

◆提言3  
学校教育充実のため、次の具体的施策を推進すること。

- ①子育てに関する学習機会を提供するなどして、家庭教育の向上をさせる
- ②地域協働による教育を推進し、地域の教育力を向上させる
- ③児童生徒の健全育成事業として、人間力向上に効果的な体験活動を提供する
- ④保小の連携と小中の連携を深めた系統的な指導と支援を実施する
- ⑤発達段階ごとの学習の重点を明確

### 【諮問事項2】 学校の校区に関すること

◆提言1  
「小中一貫教育」を伯耆町学校教育の機軸とした上で、岸本中学校と溝口中学校を小中一貫教育の基幹校と位置づけ、それぞれ岸本小学校(仮称)と溝口小学校(仮称)との小中一貫教育を推進すること。

◆提言2  
八郷小学校は、岸本小学校(仮称)の分校とする。  
二部小学校と日光小学校は、溝口小学校(仮称)の分校とする。

◆提言3  
『提言1』『提言2』については、平成25年4月を最終目標として具現化すること。

◆提言4  
本年度内に、教育に精通した専門家等による専門委員会を組織し、「伯耆町の課題に対応した小中一貫教育」、「各小学校の耐震化の詳細」、「教育に対する財政措置と重点的・効率的運用」について推進策を講ずること。

◆提言5  
本年度内に、教育に精通した専門家等による専門委員会を組織し、「伯耆町の課題に対応した小中一貫教育」、「各小学校の耐震化の詳細」、「教育に対する財政措置と重点的・効率的運用」について推進策を講ずること。

これらの事項は互いに関連することから、先の専門委員会は、諮問事項1の提言を十分踏まえた上で、具体的には、答申の中で明示した答申推進に当たっての検討課題を総合的に検討するものとする。

### 【諮問事項3】 学校の校舎及び体育館の耐震化等補強・改修に関すること

◆提言1  
岸本小学校  
・体育館については、本年度内に改築工事に着手すること。

・岸本中学校との小中一貫教育の実施にあたり、校舎については、八郷小学校との統合も勘案し、早期に耐震補強や改築に着手すること。  
八郷小学校  
・早期に、対象施設の耐震補強・改修に着手すること。

・早期に、対象施設の耐震補強・改修に着手すること。  
溝口小学校  
・溝口中学校との小中一貫教育の実施にあたり、二部小学校、日光小学校との統合も勘案し、小中一貫校を新設すること。

・溝口小学校との小中一貫教育の実施にあたり、小中一貫校を新設すること。

※全文は伯耆町ホームページに掲載しています。

## 検討課題

答申書には、今回の答申を推進するにあたっての検討課題も明記されており、新たに専門委員会を組織し、次のことを検討するよう提言しています。

(1) 小中一貫教育の推進にあたって  
小中一貫教育は、全国的にもその取組が注目を集めています。伯耆町においても、小中学校間の連携で何が課題になっているかを明確にし、互いに課題を共有し、伯耆町に適した小中一貫教育の形を構想していくことが必要です。

(2) 小学校の分校化にあたって  
答申では、地域の人々の思いに配慮し、分校化によって全ての小学校を存続させることが提言にもりこまれています。

これについては、次の課題を検討する必要があります。

- ①多くの小学校の校舎などの耐震補強が必要となり、多大な財政負担となります。教育の質の維持・向上に向けた予算配分等とあわせて検討する必要があります。
- ②分校には、管理職、養護教諭、事務職員は配置されないため、児童の健康管理や本校との連絡調整、学校管理等の課題が懸念されます。

(3) 地域の特色を生かした教育の推進  
学校統合が進むと現在の各小学校で実施している地域学習をすべて盛り込むことはできません。学校においては、地域の歴史や自然・文化など学習素材の精選と重点化が必要です。また、公民館等には、子どもたちが地域と関わる機会を積極的に提供し、「ふるさと伯耆町」を伝えていくことが期待されます。

## 今後のスケジュール

答申を受け、教育委員会では、町内学校の教員と学識経験者による学校教育検討専門委員会を早急に組織し、検討課題に対応した「伯耆町学校教育ビジョン」を明確にした上で、住民説明会などを開催し、住民のみならずの意見をお聞きしながら、対応の具体化を図っていきたくと考えています。

最終的には、平成25年4月を目途に、新しい形での学校配置をスタートさせる予定です。



検討会の様子(溝口公民館)

伯耆町学校教育検討会のみなさん	
会長	西村 忠 (坂長)
副会長	真矢 静人 (栃原)
委員	井上 誠行 (溝口小学校)
	大木 寿之 (岸本)
	景山 英明 (金屋谷)
	金田真由美 (上細見)
	住田 泰 (福岡)
	中曾 喬至 (坂長)
	永井 欣也 (畑池)
	山西 修子 (丸山)
検討会アドバイザー	矢部 敏昭
	(国立大学法人 鳥取大学 地域学部長)



西村会長(左)から伊藤教育委員長へ答申書が渡されました

【問合せ先】教育委員会事務局  
総務学事室 ☎62・0927